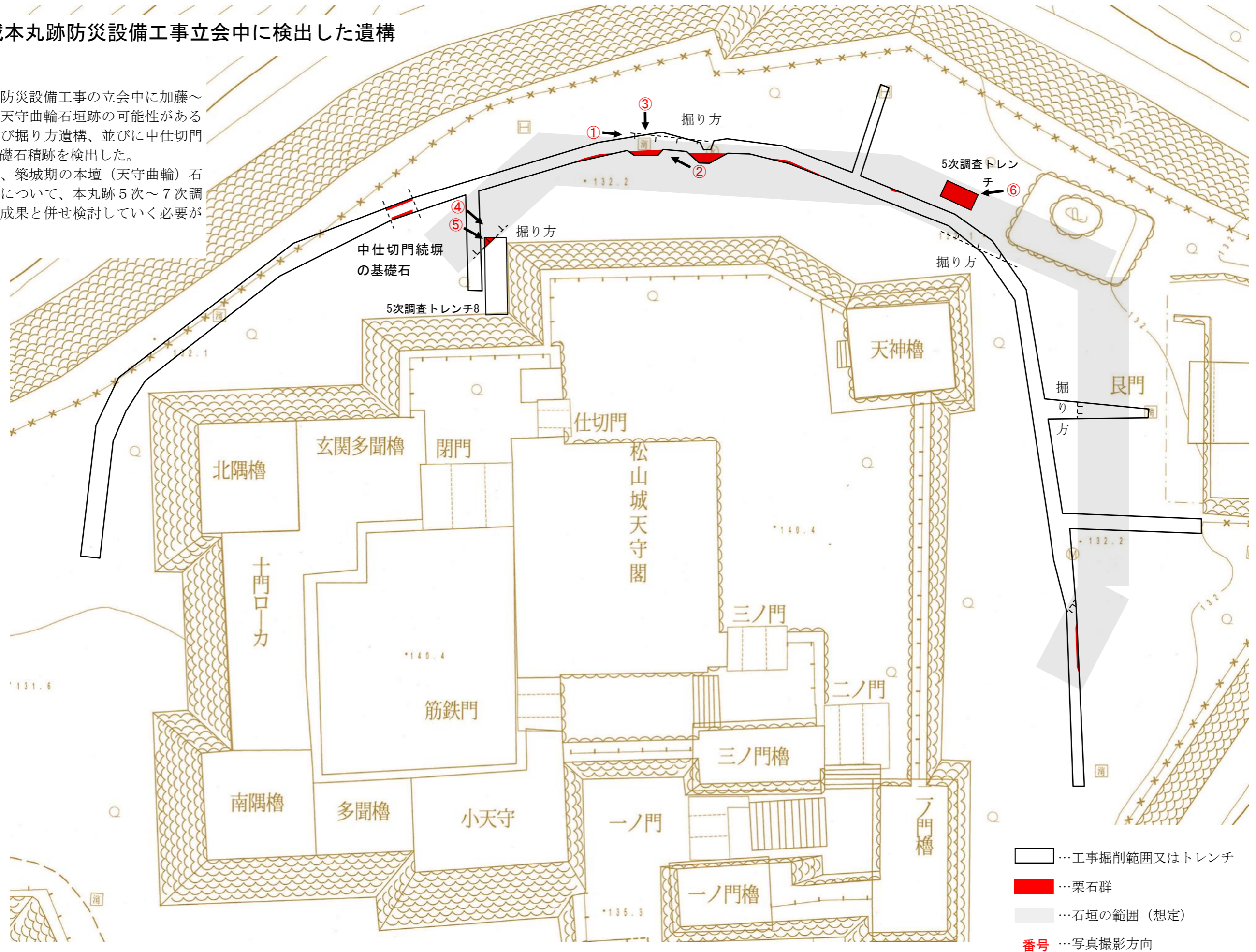


# 松山城本丸跡防災設備工事立会中に検出した遺構

本丸跡防災設備工事の立会中に加藤～蒲生期の天守曲輪石垣跡の可能性のある栗石群及び掘り方遺構、並びに中仕切門続塀の基礎石積跡を検出した。

今後は、築城期の本壇（天守曲輪）石垣の位置について、本丸跡5次～7次調査の調査成果と併せ検討していく必要がある。



- …工事掘削範囲又はトレンチ
- …栗石群
- …石垣の範囲 (想定)
- 番号 …写真撮影方向



写真① 栗石の検出状況（西から）

本壇の北側部分。工事掘削坑の右側（南）に栗石群が断続的に検出されている。



写真② 栗石の検出状況（東から）

右の写真の手前を逆から撮影。左側（南）栗石群、右側（北）に花崗岩の地山が露出している。おそらくこの間にかつては石垣の根石が在ったものと思われる。



写真③ 栗石の検出状況（北から）

わずかな残りではあるが、栗石群の密度を見取ることができる。石の大きさは拳大から人頭大までと均一ではない。

## 加藤～蒲生期の天守曲輪石垣跡の可能性のある栗石群



写真④ 本丸跡5次調査トレンチ8における栗石の検出状況（北西から）

手前右隅（北西）に栗石群が斜めに検出されており、左続きは、現在の本壇（天守曲輪）の掘り方に切られている。掘り方は、硬い礫岩の地山を掘って造られている。



写真⑤ 本丸跡5次調査トレンチ8における栗石の検出状況（北西から）

栗石群が現在の本壇（天守曲輪）石垣の築造によって斜めに除去された状況。現在の石垣根石よりも栗石群が下部に潜る。



写真⑥ 本丸跡5次調査トレンチ5における栗石の検出状況（北東から）

栗石群が調査区全体に検出されている。上層から滴水瓦の破片が出土している。